

この資料は「検討結果報告書」の確認用資料です。

実際の検討結果報告書は、A4になりますが、
本編中の見開き状態を確認するため、
A3にて編集表現いたします。

また、本原稿はレイアウト作業前の段階です。
本原稿で使用している書体、文字サイズ等は、
最終のものではありません。

構成、内容が概ね確定してから、
レイアウトデザイン、書式を整える作業を
整えていきます。

町田市の博物館等の新たな在り方構想

検討結果報告書

「文化芸術都市・町田をめざして（仮）」

（見開き調整のための空白）

（案）

2011年 3月

町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会

町田市

目次

はじめに

町田市が検討委員会に検討をお願いしたこと

- (1) なぜ検討委員会での検討をお願いすることになったのか…………… 4
- (2) どのようなことを材料に検討したのか…………… 5

本検討委員会からの報告

本検討委員会での検討結果（要約）…………… 8

1. 町田市は豊かな文化資源を持っている

- (1) 博物館施設が保有する主な資料とその価値…………… 9
- (2) 現在の博物館施設における資料の整理・保存状態の検証…………… 10
- (3) 現在の博物館施設における展示・活用のための施設状況の検証…………… 10

2. 町田市にある博物館等は3分野の施設群に整理

- (1) 3つの分野の施設群に整理…………… 11
- (2) 3分野の施設群が抱える主な課題…………… 13

3. 町田市の博物館施設に求められる役割

- (1) 文化芸術振興による地域の活性化…………… 16
- (2) 学校教育との連携…………… 16
- (3) 生涯学習への貢献…………… 16
- (4) 市民協働の場の提供…………… 17
- (5) 商業との相乗効果…………… 17
- (6) 観光と文化の連携…………… 17

4. 町田市の博物館施設が役割を果たすために

- (1) 専門学芸員をはじめとする人材の確保と適正な配置…………… 18
- (2) 博物館機能を持つ施設間の連携協力体制の確立…………… 19
- (3) 効果を高める施設配置…………… 19
- (4) 文化芸術都市の「顔」駅前文化ナビゲーション施設の設置…………… 20

おわりに…………… 21

資料

- 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会設置要綱…………… 22
- 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会 委員名簿…………… 22
- 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会 開催日程…………… 23
- 町田市の博物館等が保有する資料…………… 23

町田市は、美術工芸分野において日本屈指のコレクションを有する町田市立博物館、内外に広く活動が評価されている町田市立国際版画美術館、地域の個性を存分に発揮している町田市立自由民権資料館、縄文時代の草創期・早期・前期・中期・後期・晩期とあらゆる時期の遺物が出土する全国屈指の縄文遺跡など、個性が輝く文化資源に恵まれています。また、環境の時代に大きな意味を持つ豊かな里山の自然も多く残されています。

町田市にはこんなにも豊かな文化資源がある。このことを、市民を始め、教育や産業・観光に携わる方々、市民活動を実践されている方々など、より多くの方々の間でしっかりと共有することが、「文化芸術都市」を実現するうえで大きな力になります。そのためには、町田市にある文化資源の情報を一元的に集約整理し、その活用を進めていくことが重要です。

一方、現状の市立博物館を始めとする様々な博物館施設は、それぞれ独自の成果と実績を持ちながら、情報の共有化、各施設の老朽化と狭隘化、人材の不足など様々な問題を抱えているため、本来の機能を発揮しきれていないことが明らかになってきました。委員会では、これら各施設が互いに個性を活かしながら、一致協力して町田市の文化の顔を形成できるように、そしてより多くの文化芸術に触れる機会のある生活や、まちの活性化へとつなげていくための様々な方策を検討して参りました。

このたび委員各位の活発な議論をいただきまして、ここに「文化芸術都市・町田をめざして（仮）」という提言をまとめることができました。

関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、この提言が今後の町田市政に的確に反映され、町田市が今後も全国に輝く個性を発揮していくことを希望します。

用語について

本報告書では、様々な博物館についての記載がありますので、混乱を防ぐために以下のような用語の使い方をします。

博物館： 本報告書で「博物館」と記載した場合は特定の博物館ではなく、一般論としての博物館を示します。

市立博物館： 本報告書では、一般の博物館と区別するため、町田市立博物館については市立博物館と表記します。

博物館等： 本検討で取り上げる9つの施設を示します。

博物館施設： 博物館等のうち市立博物館、国際版画美術館、自由民権資料館、考古資料室の4つの施設を示します。

※作業途中のため、文中での用語統一作業が一部未整理の部分がある旨ご容赦ください。最終的にはチェック、修正を行います。

町田市が検討委員会に検討をお願いしたこと

(1)なぜ検討委員会での検討をお願いすることになったのか

市立博物館は、開設から36年が経過し、老朽化、狭隘化が問題になっています。また、町田市では2008年7月に事業仕分けを行い、その際、市立博物館は「不要」と評価されました。現状の建物・設備の老朽化や立地条件に不利な点が多いために本来の役割を果たせないこと、そのため他の類似施設に統合すべきであることといった点が「不要」となった主な理由です。一方、所蔵する資料の価値を発見・発揮することが大事、せっかくの資料が低調な利用ではもったいない、行政として郷土資料は重要であるなど、これまで収集した資料に関する評価もあり、立地条件も含めて、もっと市民に親しまれるものに再編していくべきであるという結論となりました。

そして、改善に向けて、市民が博物館で何を学びたいのか、何を得たいと思っているのか調査し、市立博物館単体で考えるのではなく町田市の文化施設全体の中での位置づけを明らかにしたうえで、博物館の機能をどのように発揮させるか、戦略を検討することが求められました。

また、同時に、博物館施設が市には幾つかありますが、これらの施設の連携、役割分担が今まで明確に整理できていません。これらの市の財産を十分に活かすにはどうすればいいのか、検討が求められました。

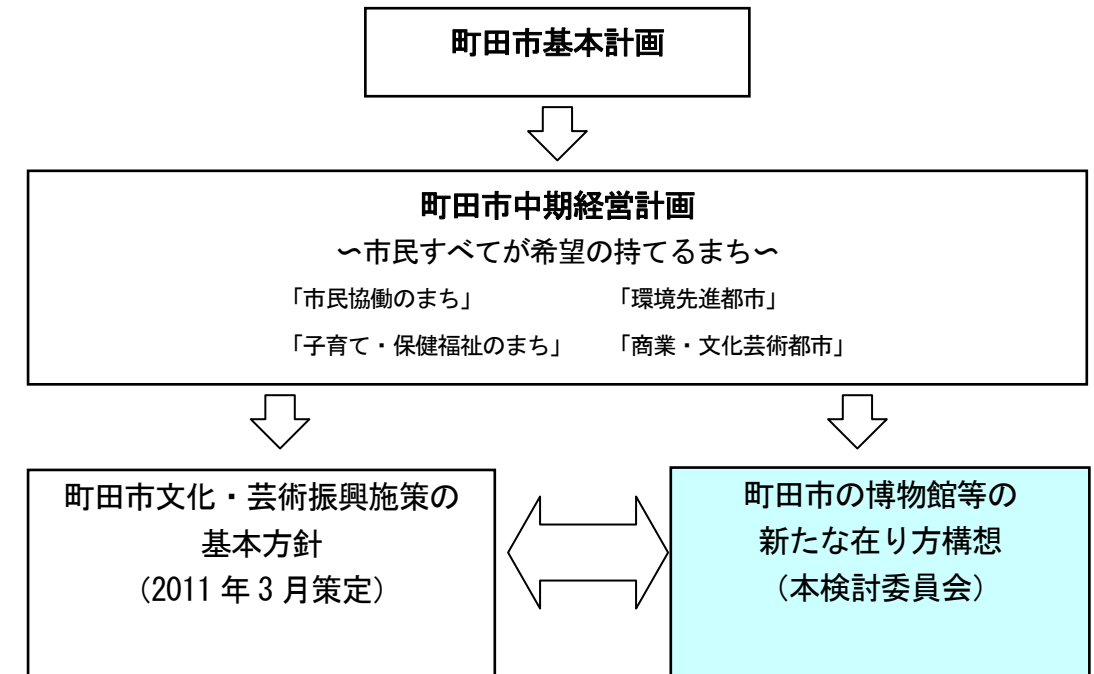
事業仕分けを受けて町田市は2008年9月の経営会議にて、町田市の博物館機能の再構築に着手するため庁内組織による検討を開始することを決定しました。「町田市博物館等の在り方検討委員会」（以下、「庁内検討会」という。）を設置し、2008年11月から2010年2月にかけて10回の委員会を開催、2010年3月『「町田市における博物館の在り方について」（検討委員会まとめ）』として報告書をまとめました。また市民の意向を確認する必要から、市民アンケート「町田市立博物館に関する意識調査」を実施し、上記報告書に反映しました。

これらの材料を踏まえ、町田市の博物館施設の連携、役割分担の整理、この先町田市にとってどのような博物館機能をもつことが市民にとって望ましいことなのか、またこれまで町田市が収集してきた資料を広く一般の方々にどのように活用していただけるのかについて、外部からの客観的な視野と専門的な知見に基づく検討によって、新しい町田市の博物館等の在り方を検討するために「町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会」（以下、「本検討委員会」という。）を設置し、下記5項目の検討を依頼しました。

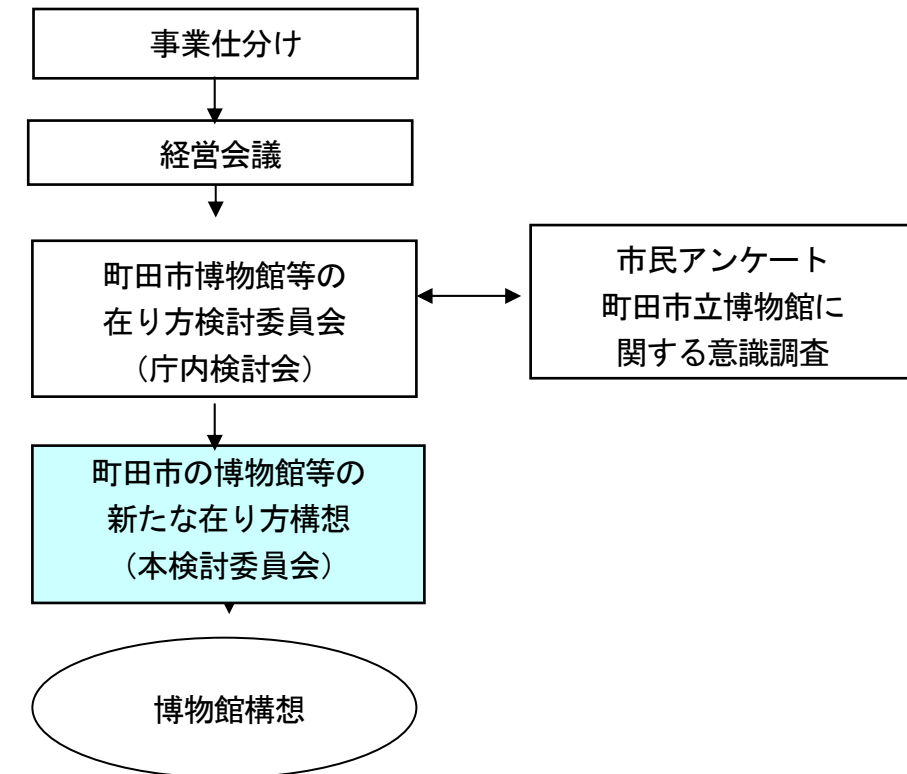
町田市の博物館等の新たな在り方について

1. 今日的な町田市の博物館が担うべき役割・機能
2. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の資料収集の在り方
3. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の望ましい運営形態
4. 町田市内にある博物館や類似の展示施設の望ましい施設・組織
5. エコミュージアム等の新たな博物館の適合性とその在り方

○町田市の上位計画との関係



○博物館等の検討の流れ



(2) どのようなことを材料に検討したのか

a) 本検討委員会でとりあげた施設

本検討委員会でとりあげた施設は下表の通りです。

施設名	所在地	開館年	概要	その他
町田市立博物館	本町田3562	1973	市立博物館では、市内の埋蔵文化財や民俗資料、ガラス器、陶磁器、風俗画、大津絵等の美術工芸品を中心に資料の収集を行うとともに、これらを調査、研究し、展示や出版物を通じて広く公開しています。また、展示については、館所蔵資料にとどまらず借用資料による展示も行うなど、ユニークな企画を心掛けています。	
町田市立国際版画美術館	原町田4-28-1	1987	世界でも数少ない版画を中心とする美術館です。1987年の開館以来、国内外のすぐれた版画作品や資料を収集・保存し、現在2万点を超える収蔵品を有しています。これら豊富な収蔵作品をベースとした多様な展示を行うとともに、市民展示室、講堂、版画工房、アトリエなどの施設の利用を通して、「見る楽しみ」「作る楽しみ」「発表する楽しみ」を総合的に提供できる美術館を目指しています。	
町田市立自由民権資料館	野津田町897	1986	郷土の民権家・村野常右衛門のご子孫より自由民権運動の意義を後世に伝えるために土地の提供を受け開館しました。自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集、保管、閲覧、また常設展示「武相の民権／町田の民権」のほか年2回の企画展開催などを行っています。	
町田市考古資料室	下小山田町4016	1991	市内の遺跡から発掘された土器・石器等の遺物や発掘調査の写真・図面などの調査記録の集蔵、保管、展示を行っています。約20万点の資料を所蔵しています。	
町田市ふるさと農具館	野津田町2288	1992	町田の農業を後世に継承するため、また多くの市民に農業への理解を深めてもらうことを目的に設置されました。農具館には、パネル館、ふれあい館、体験実習館の3つの建物があり、パネル館では、農業をテーマとしたパネルや写真を展示し、町田の農業などを紹介しています。ふれあい館では、農家の人が使ってきた農機具や生活道具を展示しています。	
忠生公園自然観察センター(忠生がにやら自然館)	山崎町1804-1	1977	忠生公園内にあり、施設には講習室や展示室などがあります。自然教育活動、自然資源を扱った展示公開、自然保護活動で利用されています。	
萬葉草花苑	野津田町3270 薬師池公園内	1988	万葉集に詠まれた70種の草花を中心に、年々姿を消していく山草花を守るため260種を育成栽培しています。障がい者の就労の場として活用する方針であり、町田市身体障害者福祉協会に委託しています。	
かしの木山自然公園管理棟(森の家)	成瀬3084	1990	成瀬、高ヶ坂、南大谷にまたがる面積約5.5ヘクタールの緑豊かな自然公園の中にあります。「かしの木山自然公園愛護会」による、各種観察会や自然講座、工作教室が開催されています。	
町田市フォトサロン	野津田町3272 薬師池公園内	1999	薬師池公園内にあり、展示室ではフォトサロン主催による企画展示や写真愛好家の作品発表の場として、広く写真芸術を紹介しています。また撮影会や写真に関する講座などのイベントもおこなわれています。	

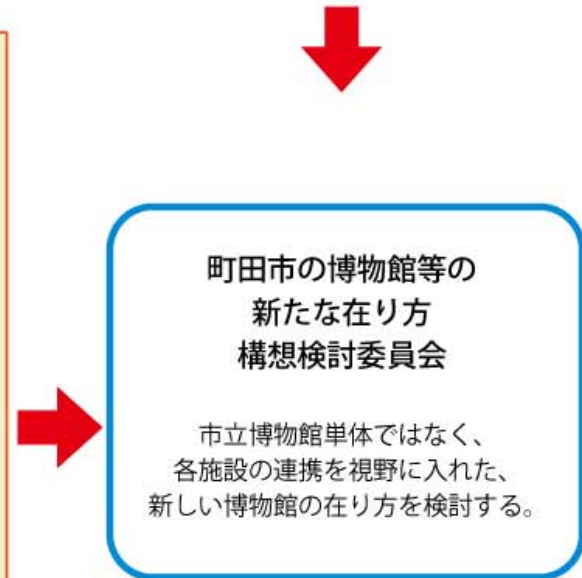
b) 庁内検討会および市民意識調査の結果

庁内検討会でまとめた課題と方向性

博物館機能に関する課題	運用における課題	市民視点からの課題	環境変化への対応の課題
<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市立博物館施設の老朽化・狭隘化 ◇博物館機能を有する施設が組織的に分散、連携が弱い <p>■今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市民のニーズが高い“自然とのふれあい”や“体験”などの充実。 ◇市民は、文化活動を始めるきっかけになるような体験や参加を求めているので、そうしたプログラムを開発できる体制の整備が必要。 	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域資源活用が場が少ない ◇地域資料、考古・歴史資料の収集・整理・展示が弱い <p>■今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇各館がそれぞれの独自性を発揮するとともに、セントラル機能を有する情報拠点を確立することにより、町田市の文化やそれに関連する情報の収集・発信ならびに企画や活動に関するネットワーク化を図る。 	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇資料陳列型の従来型博物館への関心が薄れている ◇博物館への市民の期待と実態に差（市立博物館と市の歴史） <p>■今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇町田市の博物館として、人間が生きていくための昔からの生活の知恵などが受け継がれてきたものを、伝えていくことは大きな役割。 ◇「広くてゆとりがあり、リラックスできる雰囲気がある」博物館、市内外で連携し市民が共に学べる場が求められている。 	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇教育機能、地域貢献などの新たな課題への対応が遅滞 ◇館内外の人材活躍の場の提供が不十分 ◇新たな博物館のあり方の再構築が必要 <p>■今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学芸員は社会環境の変化を受けて、新たな役割を積極的に担っていく。 ◇専門的知識と一般の人との間に立ったコミュニケーターとして活躍していく。 ◇地域人材と資源の活用や観光など産業分野との連携による文化活動の活性化。

市民意識調査（アンケート）の結果

町田市立博物館について	博物館や類いの展示施設について	今後の博物館のあり方について
<ul style="list-style-type: none"> ◇市立博物館を知っている人は全体の7割。行ったことがある人は4割 ◇訪れない理由は「これまできっかけがなかったから」「交通の便が悪い」 ◇分野別の関心は、「歴史」が高く、「美術」が低い。 ◇70歳以上の高齢者は博物館をよく訪れる（65%） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇町田市にある施設で、国際版画美術館の認知度、来館者、今後も行ってみたい施設として特に高くなっている。 ◇萬葉草花苑は、行ったことがある人は3割程度、今後も行ってみたい人が、約6割に上る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「書籍・文献の閲覧」、「講座や体験学習会への参加」、「講演会やフォーラムへの参加」のニーズが高い。 ◇「資料の収集活動に参加する」、「博物館活動の補助、支援」、「学芸員を直接訪問し質問したりする」は、相対的に低い割合となっている。 ◇博物館の立地「大きな公園の中やそれに隣接する場所」が最も多くなっている。 ◇「広くてゆとりがあり、リラックスできる雰囲気がある」ことが求められている。



C) 博物館施設が保有する主な資料

○市立博物館

【成り立ち・収集方針】

考古・民俗・美術工芸・絵画資料が大半で、他に少量の歴史資料を所蔵しています。考古資料は昭和51年度以前の発掘調査による出土資料で、民俗資料は生活形態の変化に伴い市民から寄贈されたものが主体です。美術工芸・絵画資料は寄贈の数が多く、購入による収集も一定数あります。寄贈の受け入れや購入は、町田市博物館資料収集委員会での検討に基づき行われます。公的機関が収蔵するに足る水準を保持していることに加え、既存のコレクションと関連が深いか、単独で展覧会が開催できるだけの一定数を成す一括資料で将来的な展開が期待されるものであることが条件とされています。

【所蔵資料の内訳】

考古 民俗 歴史
美術工芸（ガラス 時計 陶磁器 大津絵）
絵画（戯画・風俗画）

○国際版画美術館

【成り立ち・収集方針】

市民の美術に関する知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため、内外のすぐれた版画を中心とした美術作品及び美術に関する資料を収集、保管、展示しています。約20,000点に及ぶ、版画に特化したコレクションは日本唯一です。

【所蔵資料の内訳】

（地域別） 日本の版画 70% 海外の版画 30%
（時代別） 近・現代の版画 約80% それ以前の版画 約20%
（町田ゆかりの版画家・美術家）約2,100点
畦地梅太郎、若林奮、柄澤齊、門坂流、田中陽子、三井寿、飯田善國、松本旻、坂東壮一など

○自由民権資料館

【成り立ち・収集方針】

自由民権運動関係資料を中心に町田市の歴史にかかわる市内の文書が収集されています。原則は市内の旧家文書を、寄贈・寄託・借用契約により収集・保管しています。また、展示で利用可能な民権運動関係資料（刊行物・刷り物など）は、購入により少数収集しています。

【所蔵資料の内訳】

古文書（旧家文書等）
近世・近代刊行物
公文書（旧役場文書等）
刷り物（錦絵等）

○考古資料室（ほか生涯学習課が保有する考古資料）

【成り立ち・収集方針】

市内の遺跡から発掘された遺物・調査記録を保管しています。現在コンテナ換算で11511箱の発掘資料があります。縄文時代の草創期から晩期まで各期すべての遺物が出土する地域は全国でも稀有で、町田市は縄文の宝庫といえます。

【所蔵資料の内訳】

縄文時代	縄文時代の草創期・早期・前期・中期・後期・晩期とあらゆる時期の遺物があります。
弥生時代	近年の調査で方形周溝墓や環濠集落の一部と考えられる遺構が発見され、出土遺物も増大しています。
古墳時代	横穴墓群が数多く存在し、その副葬品類の出土が見られます。
奈良・平安時代	武蔵国分寺へ瓦を供給した南多摩窯跡群があります。
中世	1万枚を超える能ヶ谷出土銭や板碑などの遺物が出土しています。

本検討委員会での検討結果（要約）

まず、はじめに本検討委員会で議論検討した内容について、その概略を下記のとおり整理して示します。具体的な内容については、次項以降で詳しく述べます。

1. 町田市は豊かな文化資源を持っている

町田市の博物館施設には、世界有数の版画コレクション、国内有数の規模を誇るガラス・東南アジア陶磁・大津絵などの美術工芸分野のコレクション、縄文時代のあらゆる時期の出土資料が揃う全国屈指の縄文資料、町田市の歴史の独自性を語る自由民権資料など、貴重な資料が豊富に収集されています。しかし、収蔵庫の狭隘化や劣悪な保存環境、展示スペース不足などの問題を抱え、貴重な資料が市民のために十分利活用されているとはいえない状況にあります。

2. 町田市にある博物館等は3分野の施設群に整理

本検討委員会では、町田市の博物館等をその意義や目的の違いから、大きく美術系、歴史民俗系、自然系の3つの施設群に分類整理しました。3つの施設群に分類することによって、それぞれの施設群ごとに抱える様々な問題点が明らかになってきました。

3. 町田市の博物館施設に求められる役割

本検討委員会では、これからの博物館施設に求められる役割として、楽しむ場として「文化芸術振興による地域の活性化」、「観光と文化の連携」、学ぶ場として「学校教育との連携」、「生涯学習への貢献」、創造する場として「市民協働の場の提供」、「商業との相乗効果」の6項目を採り上げ、各項目について詳細に検討いたしました。

4. 町田市の博物館施設が役割を果たすために

町田市の博物館施設がこれから求められる役割を果たしていくためには、「専門学芸員をはじめとする人材の確保と適正な配置」、「博物館機能を持つ施設間の連携協力体制の確立」、「多くの人が訪れやすい場所づくり」、「文化芸術都市の『顔』駅前文化ナビゲーション施設の設置」の4項目に取り組む必要があるという結論を導きました。

以上、本検討委員会では短い検討期間の中で、非常に多くの事項について検討を重ねましたが、その中でも特に重要で、早急に取り組まなければならないと思われる「資料」、「施設」、「人材」の3項目について、3つの施設群ごとにその現状と課題及び今後の方向性について次ページに表としてまとめました。

【資料】

	現状と課題	今後の方向性
美術系	○価値の高いコレクションを有する。 ○ガラス、東南アジア陶磁、大津絵は全国有数のコレクション	○全国的な視野、世界史的な視野で収集展示するという考え方から、美術系は目を外に向けた必要がある。
歴史民俗系	○価値の高いコレクションを有する。 ○縄文時代の出土資料はあらゆる時期が前 い全国屈指の質と量を誇る。 ○資料の所管部署が分散している。	○歴史民俗資料は、学校教育や生涯学習での活用が最も見込まれることから、所管部署が分散している資料を教育委員会で一元管理することが望ましい。
自然系	○体系的な収集・保管は行われていない。	○将来的に拠点施設を整備することが望まれる。

【施設】

	現状と課題	今後の方向性
美術系	○市立博物館（美術工芸資料）は、施設の老朽化、収蔵庫の狭隘化が進む。立地条件も悪い。	○市立博物館の美術工芸機能を物理的に国際版画美術館に近づけたほうが、相乗効果が期待できる。
歴史民俗系	○考古資料を収蔵・保管するスペースが圧倒的に不足している。 ○展示・公開する施設がない。	○考古歴史民俗資料を一元的に保管管理する施設の整備が急務である。 ○展示・公開施設を整備する必要がある。
自然系	○未整備	○将来的に拠点施設を整備することが望まれる。

【人材】

	現状と課題	今後の方向性
美術系	○任期付採用や非常勤嘱託職を抱え、長期的な事業活動に支障がある。 ○教育普及を担う人材が不足している。	○長期的視野にたった人材の配置と育成が求められる。 ○教育普及を担う人材の補充が必要
歴史民俗系	○古代・中世を専門とする学芸員が不在である。 ○教育普及を担う人材が不在である。	○古代・中世を専門とする学芸員の補充が必要である。 ○教育普及を担う人材の補充が必要
自然系	○未整備	○将来的な拠点施設の整備にあわせ、環境リーダーとなる人材の育成が求められる。

1. 町田市は豊かな文化資源を持っている

美術品や考古、歴史民俗資料は、入手しただけでは人々の役に立てる状態とはなりません。モノ（資料）の意味や価値は最初からモノに備わっているのではなく、人々が社会の要請や関心に応じて「読み取る」形ではじめて見えてくるものです。博物館はただのモノを活用できる状態へと整えるために、モノがもつ意味や価値を調べ、それをどのように活用すればいいのかわかを明らかにします。こうして、市民の暮らしの様々な場面で活用できるようにしたものを文化資源といいます。

(1) 博物館施設が保有する主な資料とその価値

町田市の博物館施設には、貴重な資料が豊富に収集されています。幅広い視野のもとに古今東西の作品を特化収集した世界でもまれな版画コレクション、国内の自治体を持つ施設の中で随一の規模を誇る美術工芸分野のコレクションなどは、卓越した資料収集活動の成果です。また、歴史民俗分野では、これまでの発掘調査や、市民が保有する歴史資料の所在調査などの活動が結実し、縄文時代のすべての時期の出土資料が揃う全国的にも希少な価値を持つ考古資料、町田市の歴史の独自性を語る自由民権資料など、特有の個性を発揮する資料があります。これらの資料は、日本各地の博物館から借用依頼が多数寄せられており、全国に名前が知られています。

世界有数の版画コレクション

版画芸術に特化して、世界中の古代から現代まで、広い範囲の作品を収集したコレクションは世界的にもまれで、版画芸術を語るに欠かせない存在として国内外で高い評価を得ています。

日本で3本の指に入るガラスコレクション

チェコガラスを中心とするイタリア・フランス・スペイン等のヨーロッパガラスや中国清朝ガラス、薩摩切子、日本近代ガラス芸術の先駆者とされる岩田藤七・久利作品など、公立館では日本で三指に入るコレクションです。

東南アジア陶磁は日本最大のコレクション

ベトナム・タイ・カンボジア・ミャンマー・ラオスなどの東南アジア陶磁については、近年世界的に関心が高まっていますが、町田市が所有する東南アジア陶磁コレクションは日本および世界でも有数のコレクションです。

大津絵は日本第2のコレクション

最も優れた典型的な日本の民画で、浮世絵や陶磁器、日本舞踊などにも影響を与えたものです。公開されている大津絵コレクションとしては日本民藝館に次ぐ日本第2のコレクションです。

全国屈指の縄文資料

縄文時代はたいへん長い時代で、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期という6つの時期に分かれています。あらゆる時期の遺物が出土する町田市のコレクションは全国的に大変めずらしく、高い価値があります。

町田の独自性を語る自由民権資料

町田の歴史を語るに欠かせない、明治時代初期に興隆した自由民権運動に関する資料を集中的に収集したコレクションは、自由民権運動史研究の中心的存在として、全国的にも高く評価されています。

(2) 現在の博物館施設における資料の整理・保存状態の検証

市立博物館

- 施設全体の老朽化が著しいです。
- 温度や湿度を管理できる収蔵庫が圧倒的に不足しています。
- しかたなく、資料の保存条件を管理できない場所にも資料が置かれています。
- 保存環境が、資料保護に適する水準を下回り、資料を痛める危険性があります。
- 他施設にも保管場所を借用しているため資料が拡散し、業務の非効率を招いています。

国際版画美術館

- 版画専門という明確な目的のために設計されたため、通常の版画作品は効率よく収蔵できるようになっています。
- 近年、大型作品が増えており、スペースが足りないため、対策が必要です。
- 収蔵総数は年間数百点〜千点規模で増加しており、さらに工夫して収納スペースを確保する必要があります。

自由民権資料館

- 収蔵庫内の空調環境が十分ではありません。
- 燻蒸については、すでに収蔵されている資料には毎年行われていますが、新しく収蔵される資料については、その都度行うことができていません。
- 資料整理の進捗に比べ、それを超える新たな資料の提供があり、未整理の資料が増加する傾向があります。

考古資料室

- 年間コンテナ約50箱の遺物が出土しているため恒常的に収蔵スペースが不足しています。

結論：資料の保存状態が悪いため、早急に対策が必要です。

町田市の博物館施設では、豊富な資料を保有しながら、その資料を安全に保管する博物館機能が不十分なため、せっかくの資料を将来の市民へ維持継承していくことが損なわれる可能性があります。

(3) 現在の博物館施設における展示・活用のための施設状況の検証

市立博物館

- 積極的に企画展示を展開しています。
- 老朽化により展示室の耐震性、安全性が懸念されます。
- 通史展示など、市域の歴史を展示紹介する場がありません。
- 常設展示のためのスペースが確保できません。

国際版画美術館

- 2万点を超える収蔵品から、多様な展示を展開しています。
- 市民展示室、講堂、版画工房、アトリエなどの施設の利用を通して、「見る楽しみ」「作る楽しみ」「発表する楽しみ」を総合的に提供しています。

自由民権資料館

- 自由民権運動を中心に常設展示を行っています。
- 自由民権、地域の歴史などをテーマに企画展示を行っています。
- 市域歴史資料を紹介するためには、展示するスペースが不十分です。

考古資料室

- 小規模な展示スペースがあります。
- およそ20万点におよぶ資料を展示する十分な場所がありません。

結論：展示や教育普及など、市民に提供する機能が不十分です。

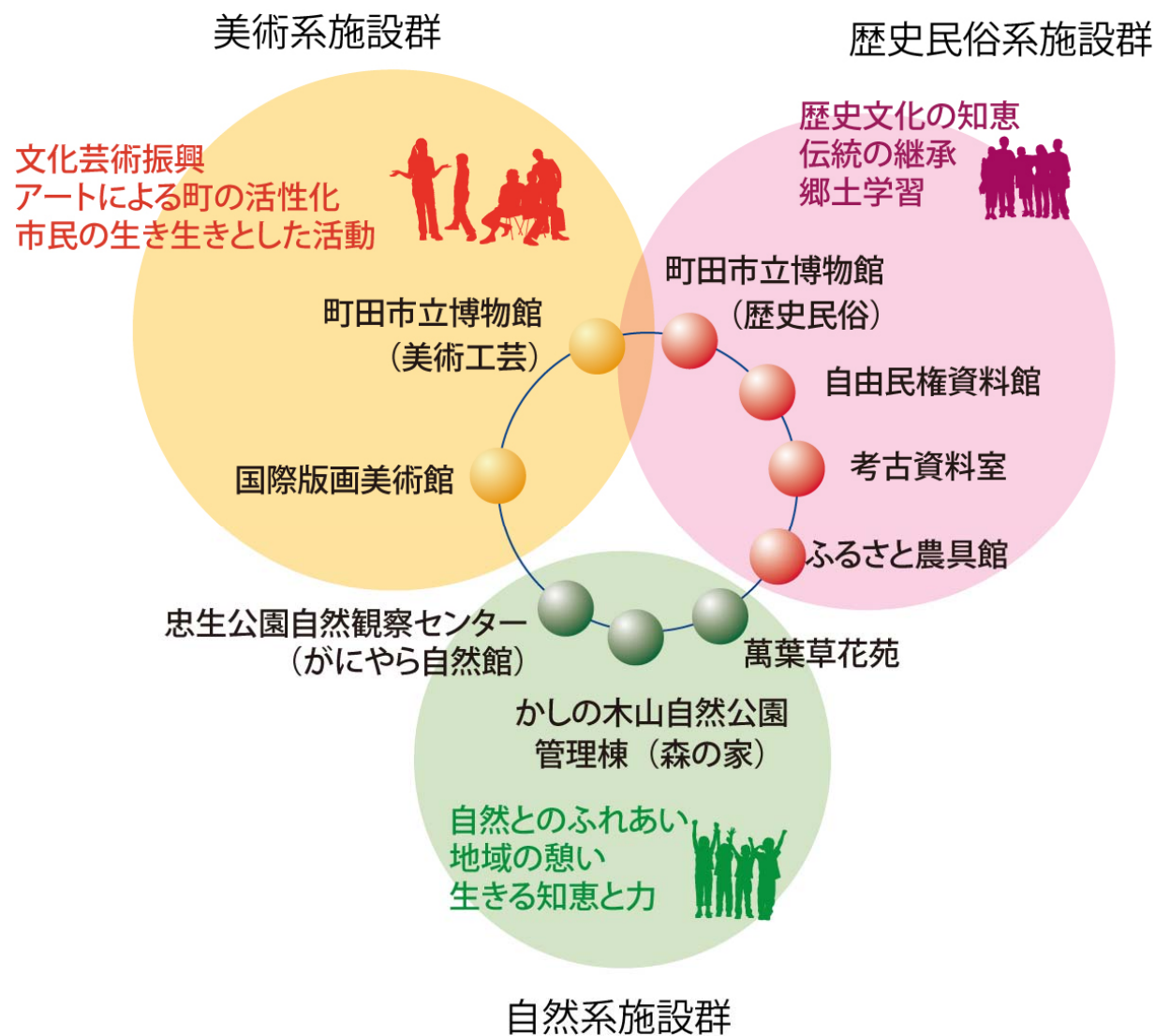
町田市の博物館施設では、保有する貴重な資料に関する情報の総合的な管理や、保有する資料の意味を引き出すための調査研究などの博物館機能が不十分なため、せっかくの資料を市民が十分に利活用できない状態にあります。

2. 町田市にある博物館等は3分野の施設群に整理

(1) 3つの分野の施設群に整理

町田市の博物館施設は、個々の施設ごとに活動を展開してきたため、施設間での機能や役割の重複もあれば、逆にどこも担いきれていない機能などもあります。そのため、個々の課題を挙げることはできても、全体としての問題は浮かび上がりにくい状態になっています。総合的な対策を検討するためには、施設単体の課題ではなく、類似機能を持った施設群を設定し、施設群ごとに課題を一元的に整理する必要があると考えます。

町田市の博物館等は、その意義や目的の違いから、大きく美術系、歴史民俗系、自然系の3つに大別できます。



○美術系

国際版画美術館

市立博物館のうち美術工芸部門およびその資料

○歴史民俗系

市立博物館のうち考古歴史民俗部門およびその資料

自由民権資料館

考古資料室

ふるさと農具館

○自然系

忠生公園自然観察センター (忠生がにやら自然館)

萬葉草花苑

かしの木山自然公園管理棟 (森の家)

※フォトサロンは性格が異なるため上記施設群には含めません。

※文学館の位置づけの検討が必要です。

○3分野共通の課題

- それぞれの施設群には、核となる施設 (情報センター的機能) が必要です。
- それぞれの施設群の特徴を強く打ち出していく必要があります。
- 一方、個々の施設は、これまでの実績と個性を継承しつつ発展させることが重要です。
- 施設群ごとに地理的に集約することが望ましいです。
- 施設どうしの統合・分散も視野に入れる必要があります。
- 検討材料となった9施設以外の施設も視野に入れる必要があります。
- それぞれの博物館群をどういう場にするのか、生涯学習の場なのか、地域に根ざした博物館にするのか、どういった性格付けにするのか、方針を明解に持つことが重要です。
- 施設の安全性について配慮する必要があります。現状では老朽化などにより懸念される点が多々あります。地盤、防災、耐震性、資料保護、バリアフリーなど、あらゆる面で検討する必要があります。

○各分野の、博物館機能の検証

博物館の3分野ごとに博物館の基本的な機能の現状を検証すると、以下のような状況であることが分かりました。

一次機能：「モノ」を「文化資源」とするための基礎的な機能

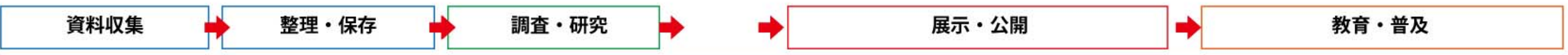
二次機能：「文化資源」を利活用する機能

収集保存
人々の知恵が込められた資料を次世代の人達に受け継ぐために散逸しないよう収集し、消失・破損から保護する機能

調査研究
資料がもつ意味や価値を現代的視点から読み解き明らかにする機能

展示公開
資料がもつ意味や価値にいつでも、だれでも、触れられるようにする機能

教育普及
資料がもつ意味や価値の読み解き方や、活用の仕方を共有する機能



美術系	◎ 価値の高いコレクションを有する	× 老朽化による保存環境の悪化 △ 収蔵スペースが足りない	◎ 豊富な実績と高い評価を得ている	○ 魅力的な企画、集客力のある展開が行われているが、さらなるテーマの広がりが期待される	△ 魅力的な活動を展開しているが、認知度を高めるため、広報をさらに充実させるべき
歴史民俗系	○ 価値の高いコレクションを有するが、一元化が求められる	△ 作業は進んでいるが、未だ途上にある × 収蔵スペースが圧倒的に足りない × 保存環境が劣悪	△ 調査研究に着手できていない資料が多い	△ 調査・研究が進んでない資料が多い × 展示スペースがない	△ 一部展開しているが、広報が不十分。 △ 全体としては一層の整備が望まれる。
自然史系	× 体系的な収集は行われていない	× 体系的な保管体制は整備されていない	× 未整備	× 未整備	△ 一部で市民活動

各段階で求められる業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○収集目的の確立 ○収集対象の評価 ○資料の所在の把握 ○入手行為の種類を選択 (発掘、採集、交換、購入、寄贈、寄託ほか) ○交渉、契約等手続き ○運搬、保険、受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料受入簿、資料台帳の整備 ○資料採寸、撮影、分類 ○保存環境の整備 (適温・適湿・空調・防盜・防塵・防火・防震・防水・防虫・防菌・防腐・防退色・採光・防紫外線) ○収蔵資料カードの発行 ○展示履歴 ○借用・貸出し履歴管理 ○マウント、額装ほか (美術系) ○組み合わせ、組み立て (考古系) ○燻蒸、修復 (歴史民俗系) ○標本作成 (自然系) ○復元・複製 	<ul style="list-style-type: none"> ○年代特定、物性解析 ○同定・鑑定・分類 ○資料成立要因の調査 ○時代、歴史背景などの研究 ○今日的資料価値の研究 ○資料解説整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○展示テーマ構成の確立 ○展示ストーリーの構築 ○展示手法の検討 ○展示コンテンツ制作 ○展示解説計画 ○展示ガイド ○企画展示・特別展示 ○出張展示、巡回展示 ○資料レファレンス ○ライブラリー ○研究成果公開 ○出版情報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料活用方法の企画 ○利活用促進・広報の企画 ○教育プログラムの開発 ○市民参加イベントの企画 ○ボランティアの育成 ○視聴覚活動・ワークショップ ○友の会活動の育成、各種自主サークル活動支援 ○社会教育団体との連携 ○図書館・公民館との連携 ○博物館相互の連携 ○学校教育との連携 ○大学との連携 ○民間企業との連携 ○ミュージアムショップ
---------------	---	---	--	---	---

(2) 3分野の施設群が抱える主な課題

○美術系

美術系については、市民意識調査の中で国際版画美術館の認知度が最も高く、行ったことがある施設としても国際版画美術館が他の博物館施設に比べて際立って高くなっています。このように国際版画美術館は町田市における文化・芸術の顔となっています。一方、国際版画美術館ほど市民に認知されていないものの、市立博物館も美術工芸資料では質・量ともに全国トップレベルであり、毎年質の高い企画展を開催し続けてきました。

現在、市立博物館は施設の老朽化と収蔵庫の狭隘化が進み、高齢化と立地条件の悪さから年々来館者数が逡減する傾向が見られます。また、博物館という名称であるがゆえに、現在の美術工芸における活動が正に評価されず、市民に十分に伝えられていない状況にあります。

今後、市立博物館が持つ貴重な財産をより有効に活用していくためには、全国的知名度のある国際版画美術館と機能を補完し合うような形で併設し、組織の整理統合を図るとともに、事業費コストを削減しつつ、両館の併設による相乗効果から集客増を図るような事業展開をすることが望ましいと思われれます。

主な課題

○美術ゾーンの形成

- 美術系の施設が集まった美術ゾーンの形成が求められます。
- 国際版画美術館は美術ゾーンの中心的役割を担うことが可能と思われれます。
- 市立博物館の美術工芸資料は集客力があるので、立地条件さえ整えばリピーターを十分に確保できます。
- 市立博物館の美術工芸機能を物理的に国際版画美術館に近づけたほうが、相乗効果が期待できます。

○資料収集・保存の考え方

- 全国的な視野、世界史的な視野で収集展示するという考え方から、美術系は目を外に向ける必要があります。
- 市立博物館が持つ美術工芸資料の保管場所の確保が急務です。現状のままでは貴重な資料が痛んでしまいます。
- 所蔵作品は素材ごとに最適な環境（特に湿度）が異なるため、それぞれの作品に適した収蔵庫が求められます。

○その他

- バリアフリー、アクセスの向上が求められます。
- 館名はこれまでの実績が持つブランド力を活かし、運用組織は一体化する手法も考えられます。

○歴史民俗系

歴史民俗系については、庁内検討会の報告書の中で「町田市の博物館として、人間が生きていくための昔からの生活の知恵などが受け継がれて来たものを、伝えていくことは大きな役割」と整理されており、市民意識調査でも「町田市の歴史や民俗・考古分野の展示が常設されている施設」への要望が高い割合となっています。

町田市の歴史を調べられる場としては、図書館や自由民権資料館、博物館、考古資料室が挙げられます。所管はまちまちであり、所在も各地域に散在しているため、市民が利用しやすい状況にあるとはいえません。

将来的に「歴史民俗資料館」のような核となる施設ができることが望ましいのですが、その前に市民が現有の施設等を有効に活用できるよう資料管理や情報管理の一元化を図るとともに、市民に広く知らしめるための広報活動を充実させることが必要と思われる。

主な課題

○資料情報の一元化

- 歴史資料の情報を市民に対して一元的に提供する機能が必要です。そのための歴史民俗系の情報センター機能をどこに持たせるかが課題です。
- 古文書を含めた文献資料の所在・保存状況がどうなっているのか、民間も含めて情報を集約し、受け皿を考えておく必要があります。

○通史展示の整備

- 市民を対象としたアンケートでは通史展示の要望があります。地域の歴史を知りたいというのは大切なことです。これに応えるために、通史の調査研究を進め、その成果を展示として公開するべきです。
- 学校現場では、子どもは絶えず次世代へ移っていくため、郷土史を学習するニーズは常にあります。
- 自然史から始まって歴史に流れ込むような方法も大変良いアプローチだと思います。
- 固定展示にならないような工夫が重要です。とくに、参加展示、活動プログラムなどの充実が求められます。

○資料収集・保存の考え方

- 歴史民俗系の資料は、現在教育委員会生涯学習部生涯学習課と文化スポーツ振興部博物館に分かれて収蔵保管されています。考古歴史民俗資料は、学校教育

や生涯学習での活用が最も見込まれることから、分散している資料は教育委員会で一元管理することが望ましいと思われます。

- 歴史民俗系全体として、十分な保存環境の管理が可能な収蔵庫や、保管場所の整備を早急に検討する必要があります。
- 地域性の資料は重要ですが、町田の歴史を説明するテーマによっては周辺地域の関連資料とのつながりなくしては表現できないこともあるので、収集資料の選定にあたっては視野を広く持つ必要があります。
- 過去の出来ごとだけでなく「今起きていること」も含めて保存していくという視点も必要です。それにより収集すべき資料の範囲も拡大します。
- 通史展示を視野に入れて資料整理をし、鎌倉街道や絹の道など多角的に郷土史を捉えていくことが重要です。
- 民俗資料は比較的系統立てて集められています。農耕具や養蚕関係は非常に良い資料です。ただ、保管場所が廃校であるため、長期間このまま放置しておくのは問題があります。

○組織体制・人材の問題

- 縄文資料は豊富にあるのに、活用する人材が不足しています。これまでは遺跡の発掘や保護に多大なる実績がある一方、出土した資料の活用まで手が回っていないように見受けられます。
- 資料の教材化、教育プログラムの立案、学校カリキュラムとの調整などについて、綿密に計画を立てて推進する役割を担うチームが求められます。
- 町田市史の取扱いは、自由民権資料館条例の設置目的に規定されていますが、各時代の専門性を有した学芸員の不足により通史全体をカバーできません。
- 町田市史は刊行後40年を経過し、改定の時期を迎えています。改定のための体制整備が必要です。

○その他

- 教育普及を充実させ、リピーターを獲得する工夫が必要です。
- 市民大学の歴史講座の受講生をみると、市史を勉強したいと思っている人がたくさんいることが分かります。市民の学習活動の場を提供していくような活動がどこかで担えると良いでしょう。
- 土器片を復元するとか、手で触れて自分たちで作ってみるという、参加体験型の利活用による魅力づくりが考えられます。
- 自由民権資料館は独自性のある資料館なので、その個性をより際立たせて発揮できる環境を整える必要があります。テーマに相応しい専門性に特化し、内容の一層の充実を図るべきです。

○自然系

町田市には豊かな里山が残っており、東京都の中では稀有な存在です。環境教育という今日的課題において、こうした里山の活用な大きな注目を集めています。

庁内検討会の報告書においても、「自然とのふれあいや体験に関する市民のニーズは高い。体験や参加は、市民が文化活動を始めるきっかけとなる。」と整理されており、市民意識調査でも自然科学分野を重要と思う人は、文化活動への参加意向が高いという傾向が見られました。

町田市には町田市全体の自然を扱った博物館はありませんが、緑豊かな都市で自然保護団体の活動も活発です。市民大学講座においても長年町田市の自然に関する講座が行われており、受講した市民もかなりの数に上っています。

町田市には、四季折々の自然を楽しめる薬師池公園があり、その周辺には「ぼたん園」「えびね苑」「ダリア園」「リス園」「フォトサロン」など観光資源が豊富にあることからこの周辺に町田市全体の自然を学べる拠点となる施設を整備することが望ましいと思われれます。

主な課題

- 環境教育の視点から、里山景観保存の重要性が指摘されています。自然系における環境リーダー、専門家による里山学習などのフィールド実習が望まれます。地域連携、市民参加の意味でも有効です。
- 地域の自然特性をしっかりと捉えることが重要です。
- 現状ではどの施設も公園もしくはその付帯施設であり、博物館機能とは言えません。
- 実際に自然のある公園のよさを取り入れながら取り組むことが重要です。自然のある公園などに、センター機能を持った拠点施設の整備が求められます。

■「自然系」の捉え方

自然系が包含する内容は広範囲に及ぶため、呼び方も単に「自然系」という以外に、「自然史系」「自然科学系」「自然環境系」などの候補が検討されましたが、なるべく将来の可能性を限定しないために、分野限定的な表現を避けて「自然系」としました。

「自然史系」

自然史系とした場合は、今現在の動植物だけではなく、地球の大地の形成や生命の誕生と進化など、長い時間に渡る自然の営みをメッセージする色合いが強くなります。悠久の生命のつながりの中で現在の町田市の自然環境を捉える場合はこの表現を用います。

「自然科学系」

自然科学は、人が自分の周りの世界をどのように見ているのか、という広いテーマを扱うこととなります。自然の動植物以外にも、天文や理工、実験と科学原理などの分野も対象となります。町田市にはまだ科学館や、科学教育センターなど、この分野を扱う機能はありません。

「自然環境系」

今日的課題としての環境問題の視点で町田市の自然を扱う場合はこうした呼び方が相応しいと言えます。自然だけでなく社会全般も対象となります。ゴミ問題、公害対策、3R問題、公園緑地、生物多様性、食糧供給、環境教育、地域コミュニティ、環境福祉、省エネ、環境インフラなど、暮らしに関わる分野すべてにわたって話題が及びます。このテーマで活動を展開する場合は、町田市のほとんどの部局が関わってくるため、組織横断的な体制が必要となります。

3. 町田市の博物館施設に求められる役割

町田市には独自に築き上げてきた個性ある文化施設群、これまでの博物館の実績として評価が高い豊富な資料、市民による自主的な活動の土壌、豊かな自然環境が存在します。博物館等の文化施設こそ、町田市が持つ文化資源の力を引き出して結集し、市民のいきいきした活動をまちの活性化の原動力へと結びつける役割を果たすことができる機関といえます。

このような役割・機能を博物館が果たすためには、これまで充実させてきた基礎的な学芸活動に加えて、新しい時代に相応しい今日的な視点が求められます。以下に、これからの町田市の博物館等に求められる新しい役割・機能について、検討したことを提示します。

(1) 文化芸術振興による地域の活性化

文化芸術活動は地域の活性化に非常に大きな役割を果たすと言っても過言ではありません。それはまた、個性あふれる豊かな地域社会を創り出すこととなります。そのような社会を創り出すためには、市民が文化芸術を育み支えていく環境を創ることが必要であり、この博物館等の諸施設が果たす役割は非常に大きいと考えます。それぞれの施設が明確な特色を持ち、その特性を活かしながら効果的に連携していくことが必要であると同時に、広く市民にその価値と重要性を知ってもらい、積極的に文化活動への参加を願うことが必要になります。そのためには、市民個人をはじめ市民団体、企業の自主的な活動が望まれますし、それぞれが役割を明確にして連携を図る必要があります。

また、同時に行政との連携を深めて、協働して文化事業を進める必要もあると考えます。そのような活動の中で、様々な「知に関わることの楽しさ」「交流や連帯感が生む力の大きさ」「地域に対する愛着」など様々な効果が生まれてくると考えます。

更に博物館等の施設が、市民だけでなく他市からの来外者にも行きやすい場所にあり、かつ、回遊できる状態にあることは利用者を増やし、それぞれの施設、ひいては集合体である文化ゾーンとして活性化することになると考えます。都市の活性化に効果的な位置に博物館等の諸施設を配置することによって、多くの市民や来外者が訪れることによって商業の活性化にもつながります。したがって、市民が文化芸術を育み支えていく環境を創ること、ならびに行きやすく回遊しやすい諸施設の配置が重要と考えます。

(2) 学校教育との連携

○知のネットワークづくり

町田市に住む子どもたちを、知を追求していく子どもたちに育てたい。そんな教育の思いをかなえるためには、子どもたちが芸術に触れたり知を求めたりする、多様な機会の提供が必要です。学校が協力しながら、子どもたちが知への欲求を掘り起こして深めていけるよう、点正在しているさまざまな文化資源を知のネットワークとして活用できる環境が求められます。

○小中学校の学習における文化資源の有効活用

博物館等には学校教育に資することができる文化資源が豊富にあります。文化資源を教育に活用するには、博物館と学校の連携が重要になります。これからの博物館は、学校に提供できる様々な学習プログラムを開発し、利用促進を図っていく機能が求められます。

そのためには、従来の学芸員にとどまらず、学習指導要領や学校側のカリキュラム策定過程を熟知した、教育普及専門の人材が欠かせません。こうした人材を中心に、子どもが参加できる鑑賞教育カリキュラムの共同開発、学校が取り入れやすいスケジュール化などを進めることが必要です。

- ・プログラム開発
- ・カリキュラム、スケジュール調整
- ・モデル授業開発・教員研修
- ・教育ノウハウの共有

○大学との連携（連携企画事業、人材交流、学生の活動の場の提供、調査研究における相互協力など）

大学では教育の一環として大学付属博物館が有効に活用されています。学芸員の学校教育に対する役割の研究や、博物館を活用した鑑賞教育カリキュラムの開発などが行われています。子どもたちが「本物」の資料に触れることの効果、その時の感動を学習体験として子どもたちに定着させるために、普及教育スタッフや教員が促すべきコミュニケーションのあり方など実践的な課題に取り組んでいるのです。

町田市にある大学のこうした成果を活用することは、これからの町田市の博物館における普及事業の充実を図る上で、非常に有効です。また大学にとっても、学生達に実践の場として町田市の博物館等を活用してもらうことは有意義であると考えられます。

- ・大学博物館等で行われている活動の導入
- ・博物館等の職員の研修、スキルアップ
- ・大学生にとっての実習の場
- ・観光、集客、マーケティング、広報等、大学研究室が持つノウハウを博物館等が学ぶ

(3) 生涯学習への貢献

町田市ではいま、生涯学習ニーズが高まっています。まちだ市民大学 HATS の講座には、郷土史や町田の自然を勉強したいという学習意欲の高い市民が集まり、大きな盛況を見せています。こうした市民のニーズに対し、博物館等はさまざまな学習機会を提供できます。所蔵資料の公開にとどまらず、資料等を有効に活用し参加体験型のワークショップを開催するなど、生涯学習に大きく貢献することができるのです。

現在、町田市では、生涯学習部、文化スポーツ振興部や、高齢者福祉関係の部局など、さまざまな部署で生涯学習関連の事業が行われています。博物館等では、こうした事業に積極的に働きかけ、文化資源の有効活用を促進すること求められます。

○地域のことを知りたいアクティブシルバー層

定年退職後のアクティブシルバーの方々を中心に、自分が住む地域の成り立ちに高い興味や関心を持つ人々が増えています。地域の昔のこと、移り変わってきた地域の風景や社会について、子や孫に語りたいたいという方も増えています。そうした方々を中心に各地で「古文書の読み解き講座」「地域の史跡巡り」等のプログラム、「まちの記憶コレクション」として、市民が持っている昔の写真や、昔のことをよく知る方々にお話を伺う活動なども注目されています。

○環境問題と昔の暮らし

江戸時代や明治初期の暮らしには、物を大切に使うための様々な工夫がありました。こうした工夫を、環境に優しい暮らしのヒントとして、現代的な3R（リデュース、リサイクル、リユース）に取り入れるため、環境活動と郷土教育の連携が注目されています。

だれもが実践できる暮らしの工夫などは、生涯学習のテーマとしても大変人気のある分野です。こうしたプログラムを展開するには博物館が持つ資料や情報は、講座だけでは得られない、実物によるリアリティやより豊かな体験を提供することができます。

○市民ボランティアの育成とその活用

博物館における市民ボランティアの育成と活用は近年大変注目されており、地域の人々の交流の活性化や、コミュニティの形成に大きく貢献できる事業です。市民の「自分にできることで役に立ちたい」というニーズは高まっており、博物館はそのための格好の舞台として活用できます。

博物館におけるボランティアの活躍の場としては、展示解説など専門知識が要求されるものもあれば、作業補助的なものまで、多様な領域と水準に及びます。基本的にはどの場面でも基幹となる職員が、利用者に対するサービスとしての品質管理を行うことが必要です。

また、市民ボランティアの育成は、教育事業そのものです。足りない人手を無償で補おうというのではなく、ボランティア精神、公共サービスの役割と責任、博物館活動に関する基礎的な知識などを理解したうえで参加していただく必要があります。そのためには各種ボランティア養成講座を行う体制が求められます。

(4) 市民協働の場の提供

現代の地方行政には、積極的に市民の参画を得て協働により施策を展開することが期待されています。地域の文化施設には、市民と行政が共に協力しあって文化を創っていく場としての役割が求められます。一部の愛好家や研究者だけでなく、市民が集い、さまざまな知恵や経験、労力などの資源を出し合う、そんな人的ネットワークを作り、発展させていく拠点として、博物館を機能させることが求められます。

博物館には様々な文化資源があるので、同じテーマに関心を持つ人々の交流の輪を形成するための場を提供し、楽しみながら仲間づくりができる環境を整えることができます。市民同士の対話や交流が活発になれば、地域の課題や問題意識を共有するきっかけにもなっていきます。市民が主体となったイベントへの協力や、ワークショップ活動への場の提供、施設の文化活動への参加促進など、市民が協働する“広場”として何ができるかを追求する必要があります。

(5) 商業との相乗効果

多くの人が集まれば、そこに商売の芽が生まれます。町田市の博物館等は、町田市内の商業との相乗効果を意識しながら、その機能を拡充していくことが望まれます。

○町田市内の商店と協力したミュージアムショップ機能の拡充

近年、博物館の多くに付帯されている「ミュージアムショップ」は、その規模や品揃え・運営方法などによって、博物館の魅力を大きく引き立てています。町田市の博物館等において、ショップの商品開発や運営を町田市内の商店と協力して行うことができれば、新たなビジネスチャンスを提供することができます。

○町田市内の人気飲食店と連携したレストラン機能の形成

ミュージアムショップと同様、近年の博物館には「レストラン」機能を備えるところが多く見られます。博物館の来館者が食事をするためだけでなく、レストランを利用することを主目的に博物館を訪れるケースも珍しくありません。町田市内の人気飲食店と連携し、レストラン機能を形成することができれば、既存店との相乗効果が生まれます。

ミュージアムショップとレストランは、町田市内の商店と協力しながら、その機能を形成・拡充していくことが望まれます。

○博物館等へのアクセスルートにある商業機能とのネットワークづくり

博物館等に多くの人が集まれば、そのアクセスルートにある商店にもビジネスチャンスが生まれます。博物館等のネットワークの間を、魅力的な商店や飲食店などでつなげることができれば、地域全体としての集客力が格段に向上します。博物館等のネットワーク化と連携して、商業機能のネットワーク化をはかることが期待されます。

(6) 観光と文化の連携

観光による「交流人口」の増加は、地域の活力向上のためにとっても重要です。

博物館が観光集客の目玉となっているところは少なくありません。町田市の博物館等も、観光振興と連携しながら、その魅力を向上することが強く望まれます。

○観光地域づくりの新たな起爆剤

町田市の博物館等がネットワーク化されると、それを新たな観光の目玉とすることも可能になり、町田市の観光地域づくりの新たな起爆剤としていくことができます。

○市民が地元観光を楽しむ場としての機能拡充

町田市民が地元を楽しむ「地元観光」の機能を拡充するために、市民の憩いの場、市民が楽しむ場、地域の子どもたちが遊ぶ場所としての機能を備えておくことも考えられます。若者向けには、おしゃれなデートスポットとして利用できるようにすることも一案です。

○観光情報と連携した文化情報発信

博物館等の関連情報発信機能を拡充していくことは、利用促進のために不可欠です。そこで、観光情報のひとつとして博物館等の文化情報も積極的に発信していくことが期待されます。

4. 町田市の博物館施設が役割を果たすために

(1) 専門学芸員をはじめとする人材の確保と適正な配置

○業務特性と必要な人材の特徴

博物館は研究機関であると同時に所蔵資料の生産現場でもあります。市民の生活の質的向上をはかるための、地域の「文化価値」と「体験価値」を産み出していくための生産的な働きが求められます。こうした価値の生産を進めるためには専門性と同時に広い視野を持った人材が求められます。

専門職

博物館の仕事は、収集したコレクションの価値を引き出して活用するために、コレクションそのものに対する深い造詣が求められます。また博物館の事業は、他の博物館、関連の研究機関、マスコミの文化芸術担当などとの協力関係なしには展開できません。特に展示においては、単独の館の資料だけでなく他施設からの資料の借用、複製許諾などが必要ですが、長期にわたる信頼関係なくしてこうした協力を得られるものではありません。一つの展示を企画し、それを実現に結びつけるには、長い時は10年以上の歳月がかかることもあります。資料収集などでも、個人蔵の寄託を受けるために15年以上通ったなどの事例もあります。

近年では博物館における専門職には以下の職種が求められます。

- 研究・企画専門学芸職（調査研究にもとづく各種展示の企画と実施）
- 教育・普及専門学芸職（学校教育・生涯教育支援、講座の企画・実施）

これまでの博物館では、これら全てを同じ職員が行わざるを得ない状況でしたが、近年では多様化する利用者ニーズと社会からの要請の高度化に応えるため、それぞれの専門担当を置く施設が増えています。

○10年先20年先を見越した長期的視野にたった人材の配置と育成

以上のような仕事の特性から、博物館の職員には長期計画に基づいた継続的なキャリア形成が必要となります。特に町田市のように高い独自性や優れた個性を持つ博物館等では他館にはない専門的知識と資料取り扱いのノウハウが必要となるため、一朝一夕で必要な人材を確保することは困難です。国内外の調査、担当分野に対する絶え間なき研鑽、論文執筆、学会出席、業界関係者との情報交換を繰り返すことで、魅力ある展示活動に必要なスキルを身につけていく環境が必要となります。

また、企画展示等を実施するにあたっては、協力機関や監修者、資料借用先の担当者との交渉などを経て実現までに3〜4年程度の時間が必要です。そのため、任期制限のある雇用形態で

は業務を担当することができず、有効に機能しません。管理上、博物館活動計画を立てる上でも流動的なスタッフ雇用では予定が立たず、効果的な活動を展開する上での支障となります。博物館等の人材は長期的な計画性が重要となります。

○博物館機能の空白部分の補充

歴史民俗分野ならびに考古分野については、絶対的に職員の人数が不足しています。自然系は全体的に未整備であるため、自然系の博物館活動を展開する場合は、人員確保を含む一からの構想検討が必要です。また、美術系を含め教育普及分野の職員も絶対数が不足しています。

(2) 博物館機能を持つ施設間の連携協力体制の確立

○情報の共有化

町田市の博物館等の業務効率化を進めるためには、どこに何があり、何が足りないのかを関係各者がいつでも確認できる状態をつくる必要があります。検討に挙げた博物館等をはじめ、それ以外にも図書館や民間の博物館など町田市にある所蔵資料を保有するあらゆる機関と情報連携の体制を確立し、一元的な町田市の文化資源の目録化、さらにはデータベース構築などを検討すべきです。また、教育普及分野では市民の興味関心に的確に応える生涯学習機会を提供するために、ノウハウの共有、プログラムの共同開発などの連携が求められます。

○各館が連携した効果的な広報活動 など

広報活動をより充実させるためには、より魅力ある広報媒体の制作、広報印刷物の発行部数の増加、インターネットなどによる最新の情報発信・情報更新などの手を打つ必要があります。また、デザイン、コピーライティングなどのクリエイティブ力も求められます。各施設がそれぞれ単独でこうした広報機能の向上を図ることは、現実的に難しいことです。複数の施設の広報を一元化し、集中的に広報人材を投入し、町田市の文化施設の情報発信スタイルに一貫性を持たせることで、広報に関わる人材と予算を有効に活用しながら発信力を高めることを検討すべきです。

○散策ルートの形成

博物館体験をより魅力的なものにするために、複数の博物館等を歩いて巡るルートを形成し、ルートごとの特徴を打ち出すことで、周辺地域と複数の博物館等の連携を強める事ができます。ルート途中にも、「見どころ」などを設定したり、来訪者の賑わいを形成する事で地元商店にも活気をもたらせるよう配慮するなど、複合的な活性化策を検討すると効果的です。

(3) 効果を高める施設配置

○利便性

集客向上の方策は多々ありますが、企画、広報、情報発信などよりも、圧倒的に立地環境に負うところが大きいものです。交通の便のいい場所にあることはとても重要で、そうでないと集客力は極端に落ちます。現状の施設はそれぞれが小規模で、単独ではにぎわいが形成できません。特に外部や遠方からの集客という観点では、現状のままではあまり期待できません。立地検討の際は、交通の便がよく人々が訪れやすい場所を最重点に考慮すると共に、高齢者から子供まで、そして健常者も障がい者も安全に行けることが重要と考えます。

○明確なゾーニング

文化施設を分野毎にグルーピングして明確にゾーニングすることによって、グルーピングされた施設相互の相乗効果によって、はっきりとした性格づけと独自の効果を発揮できる環境づくりが可能になり、一層文化芸術都市としての位置づけが明確になります。

町田市の都市計画との整合性を図りながら、町田市独自の明確なゾーニングが必要と考えます。

○「ついで」の効果

市民の暮らしの中で、単独の施設にだけ出かけるということは稀です。買い物や用事の機会にまちの中を歩きながら回遊し、いろいろな施設が目につくことで、ふと立ち寄れるという環境であれば、芸術文化と商業の相乗効果を生むことができます。立地を検討する際はこの「ついでの効果」が重要となります。例えば、子どもからお年寄りまで幅広い市民が集える広場的な空間を中心に、その周辺に美術館や博物館があれば、ついでに見て回って、気持ちよくなったところで最後に音楽を聞いてレストランに入るなど、商業施設との相乗効果による魅力を発揮し、外来者の集客力向上や、リピーター層の形成につながります。

(4) 文化芸術都市の「顔」駅前文化ナビゲーション施設の設置

文化芸術都市の「顔」として、文化の香りを駅周辺に醸成することが期待されます。そのためには中心市街地に町田市文化芸術情報を案内するナビゲーション施設を設置することが効果的です。人通りがあり、市民が日常生活のついでに立ち寄れる施設は大変重要です。新しい場所を確保できるチャンスを逃さないよう、新庁舎、庁舎跡地、駅前再開発など、あらゆる可能性を模索すべきです。

○市内外の人を呼び込み、各施設へ誘導するナビゲーション機能

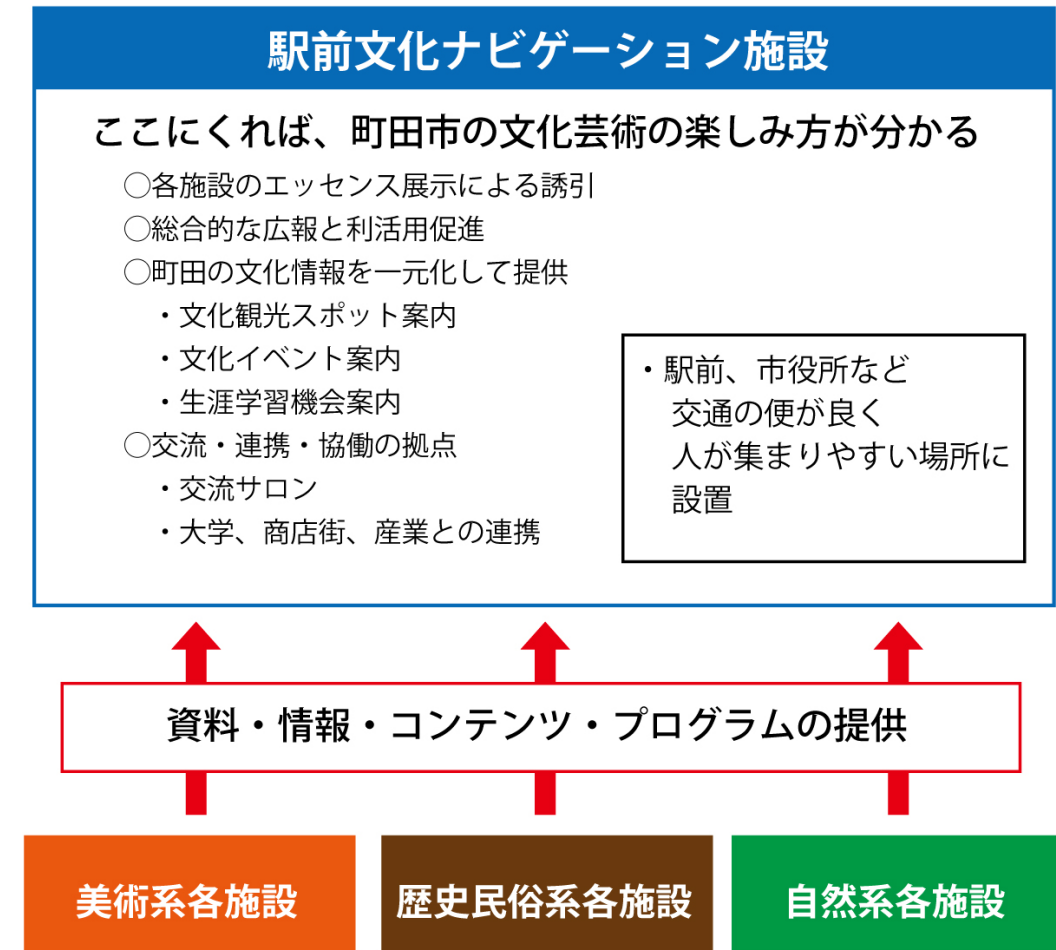
- 駅前の文化芸術ムードの醸成
- 町田市文化施設・観光スポットの案内

○博物館施設の情報が全て得られる情報センター機能

- 広報の一元化
- 講座、セミナー情報の一元化
- イベント情報の一元化

○まちと文化施設を結ぶ新しい事業の、発想・交流・企画拠点機能

- 商店街、地域の事業者との連携
- 大学連携情報の拠点
- 活動団体等の交流機能



おわりに

町田市の博物館等の最も大きな課題として、個々の施設が別々に活動してきたため全体としての戦略・協力・連携が困難な状況にあるということが、本検討委員会での検討を通して明らかになってきました。そのため、施設を、「美術系」「歴史民俗系」「自然系」の3つの分野に分けてとして課題を整理しました。町田市におかれましては今後に向けて、各分野が一体となって議論、検討を進められる体制を整えることが重要と考えます。今後は、各分野を担当する部署が連携して議論を重ね、よりよい博物館事業を実現するための方策を検討して下さい。各分野の施設群の核となる機能をどこに置くか、重複している事業や機能の整理、不足している機能の整備などが議論されることを期待します。

※検討に至らなかった事項

本委員会は短期間で多くの検討事項を与えられていましたが、下記の事項については、検討に至らなかったため、次年度以降検討されることを期待します。

○施設の運営形態

○エコミュージアム

資料

○町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会設置要綱

平成 22 年 7 月 1 日

施行

文化スポーツ振興部文化振興課

第 1 設置

町田市の博物館等の新たな在り方構想の策定に当たり、望ましい博物館像等について検討するため、町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第 2 所掌事務

委員会は、次に掲げる事項について調査、検討し、その結果を市長に報告する。

- (1) 町田市の博物館等の新たな在り方構想の策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

第 3 組織

- 1 委員会は、委員 9 人以内をもって組織する。
- 2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 7 人以内
- (2) 町田市公立小学校長会の代表 1 人
- (3) 町田市公立中学校長会の代表 1 人

第 4 委員の任期

委員の任期は、委員会が第 2 の規定による報告をしたときまでとする。

第 5 委員長

- 1 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。
- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

第 6 会議

- 1 委員会は、必要に応じ委員長が招集する。
- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

第 7 庶務

委員会の庶務は、文化スポーツ振興部文化振興課において処理する。

第 8 委任

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、2010 年 7 月 1 日から施行する。

○町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会 委員名簿

氏名	分野	所属・経歴
1 鈴木 良明	仏教史	鎌倉国宝館長
2 濱田 隆	美術史	元奈良国立博物館長、元山梨県立美術館長
3 渡辺 一雄	文化行政一般	玉川大学教育学部教授、同大教育博物館長
4 小瀬 康行	博物館学	東京家政学院大学教授、同生活文化博物館長
5 前島 正光	まちづくり	NPO法人顧問建築家機構代表理事
6 山口 有次	観光レジャー地域計画	桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授
7 上原 敬子	小学校教員	藤の台小学校長
8 篠原 やよい	中学校教員	薬師中学校長

(順不同敬称略)

○町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会 開催日程

○第1回委員会 2010年9月29日(水)

- ・ 検討委員会のスケジュールについて
- ・ 町田市の博物館等(博物館機能を持つ施設)の現状と課題(事務局より説明)
- ・ 地域における博物館等の役割に関する意見交換

○第2回委員会 2010年11月11日(木)

- ・ 博物館等はどのようにして市民の生活を豊かにすることが可能かについて
- ・ 市民が積極的に参加できる博物館等(博物館機能を持つ施設)の在り方について
- ・ 博物館等を活用した新しい市民活動や協働の担い手の可能性について

○第3回委員会 2010年12月17日(金)

- ・ 各施設の分類と整理
- ・ 博物館の将来像(課題、役割分担、連携など)

○第4回委員会 2011年1月21日(金)

- ・ 報告書骨子(案)について
- ・ 資源の有効活用について
- ・ 博物館機能の将来像について
- ・ 人材の配置と育成について

○第5回委員会 2011年2月14日(月)

- ・ 検討結果報告書(案)について

○第6回委員会 2011年3月2日(水)

- ・ 検討結果報告書(最終案)について

○市長と委員会の対談 2010年11月5日(金)

○市内文化施設視察 2010年11月5日(金)

- ・ 市立博物館、自由民権資料館、忠生公園自然観察センター、国際版画美術館を視察

○所蔵資料関係資料

ほかの資料

町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会
検討結果報告書

平成 23 年 3 月発行

発行 町田市

文化スポーツ振興部 文化振興課

〒194-0022 東京都町田市森野 1-33-10 森野分庁舎 TEL042-724-2184

町田市立博物館

〒194-0032 東京都町田市本町田 3562 TEL042-726-1531

編集・支援 株式会社トータルメディア開発研究所